

木彫・刻字作品展

～谷口満慶木彫展～ 2015

作品記録集



木づかい推進企画展

2015/7/1～10/31

熱田白鳥の歴史館

林野庁 中部森林管理局 名古屋事務所

はじめに

林野庁中部森林管理局名古屋事務所の存置場所は、かつて白鳥(水中)貯木場がありました。白鳥貯木場のはじまりは、尾張藩が”白鳥御材木役所”を設置した元和元年(一六一五年)にまでさかのぼり、平成二十七年(二〇一五年)、ちょうど四百年を迎えました。

平成二十六年四月、林業の歴史を学び、国産材の普及・利用促進を図ることを目的として事務所に併設する多目的ホールの一部に展示コーナーを開設し、その後、平成二十七年四月からは「熱田白鳥の歴史館」と命名して展示物の更なる充実を図り、生涯学習施設として地域の皆さんに活用していただいているところです。

こうした歴史的な節目を迎えた平成二十七年、展示館開館記念と熱田白鳥の歴史を伝え木材利用の推進を図ることを目的に、七月一日から”木づかい推進月間”である十月三十一日までの間、木彫りや刻字作品の特別展示を行いました。

これは、長年にわたり木彫りなどを手がけてこられた元林野庁職員が制作した絢爛華麗な多くの作品を、「熱田白鳥の歴史館」において一般の方々に公開したものです。

出展作品の中には、江戸時代後期に描かれた「木曾式伐木運材図絵」の図絵を木彫りにより立体化したものなど、”一見の価値ある”貴重な名品が多く出品され、期間中は一千人近い来訪者が作品を通じて木の良さ、木の温かみを直に感じていただきました。

この記録集は、出展された四十数作品を紹介するとともにそれぞれ解説を加え企画展の記録としてとりまとめたものです。

平成二十八年 三月
林野庁 中部森林管理局
名古屋事務所長 河野 充

1 はじめに

2 出展作品

1	Welcome Gate ケヤキの衝立	1
2	祥雲	2
3	和	3
4	千寿	3
5	春夏秋冬	3
6	道	3
7	耕不尽	3
8	偶成 朱熹	4
9	七つの子	5
10	春宵多旅夢	6
11	日々是好	6
12	宮澤賢治	7
13	鳥声幽谷樹山影夕陽邨	8
14	以和為貴	9
15	五幅祥来	10
16	山河四望春	10
17	島崎藤村 小諸なる古城のほとり (抄)	11
18	山あり谷あり笑顔あり	11
19	川中島 頼山陽	12
20	釈月性	13
21	獅子頭	14
22	春曉 孟浩	15
23	初心不可忘	16
24	徳川家の家紋	17
25	村情山趣	18
26	木曾式伐木運材図絵 「元伐之図」	19
27	木曾式伐木運材図絵 「柚小屋之図」	20
28	獅子舞	21
29	一期一會	22
30	和光同塵	23
31	山河風情	24
32	男どもの詩より	25
33	森の水車	26
34	蓮花在水	27
35	松寿千年翠	27
36	徳有隣	28
37	無信不立	28
38	百花舞う	29
39	木曾式伐木運材図絵 「白鳥湊着桴之図」	29
40	旅立ちの図	30
	<そのほかの作品>	30
3	<作者とともに>	32
4	報道記事	33
5	中部森林管理局広報「中部の森林」平成27年9月号	36
6	木彫・刻字作品展 チラシ	37



Welcome Gate ケヤキの衝立

ケヤキの円盤を、心材部分が腐朽し一部空洞化していたものです。

腐朽部分のみ取り除き木目の特徴を活かして作成されました。

ゲートの中に棲む木の妖精たちが展示館を迎えてくれました。





祥 雲 しょうん
ヒノキ (額: イチイ)

釈 文

めでたいときにあらわれる雲



道

カツラ (金箔貼)

春夏秋冬

カツラ

千寿

カツラ

和 (古代文字)

カツラ

釈 文

道

人としてふみ行わなければならない道理、道德。

長い人生の道、今まで走り続けてきた道、さらにこれからの余生を光り輝いたすばらしい道に。

春夏秋冬

季節を色と字体で表現してみた

千寿

長寿で、めでたいこと。

和

おだやか、のどか、なごむ、やわらぐ。



耕 不 田 耕せども尽きず

クワノキ

釈 文

田畑は、耕せば耕すほど肥沃になります。同じように、心の田畑も耕し続けることによって、心豊かな人となることができます。



偶 成 朱熹の詩

少年易老學難成	少年 老い易く 学成り難し
一寸光陰不可輕	一寸の 光陰 軽んず可からず
未覺地塘春草夢	未だ覺めず 地塘 春草の夢
階前梧葉已秋聲	階前の梧葉 已に秋声
	トチノキ

釈 文

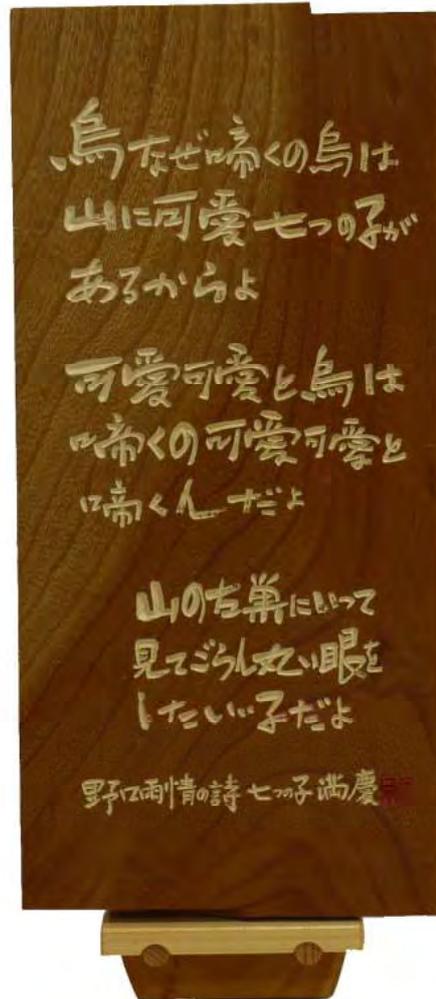
若者はすぐ年をとってしまうが、学問はなかなか成就しがたいものだ。
 (だから) ちょっとの時間でも、軽くあつかってはいけない。

まだ、池のほとりの堀の春草の上で楽しく遊ぶ夢がさめないうちに、階段の
 前の庭の青桐の葉はもう秋風にさびしく音をたてる季節になってしまうのだ。

若い盛んな年頃は二度とくるものではない。一日のうち朝は再びやってくる
 ものではない。その時その時の勉学を怠らないことだ。

この格言は永遠に教訓として、生きているのだ。

飾盆：木地師がロクロで、炬燵板用に仕立てたトチの木の杳目の美しいお盆を、削
 り直して刻字の飾盆にしたものです。



ケヤキ
七つの子

鳥 なぜ啼くの鳥は
山に可愛い七つの子が
あるからよ
可愛 可愛と鳥は
啼くの可愛 可愛と
啼くんだよ山の古巣へ行って
見てごらん丸い眼を
したい子だよ

童謡 野口雨情 作詞



春宵多旅夢 春宵の旅 夢多し
カツラ

釈 文

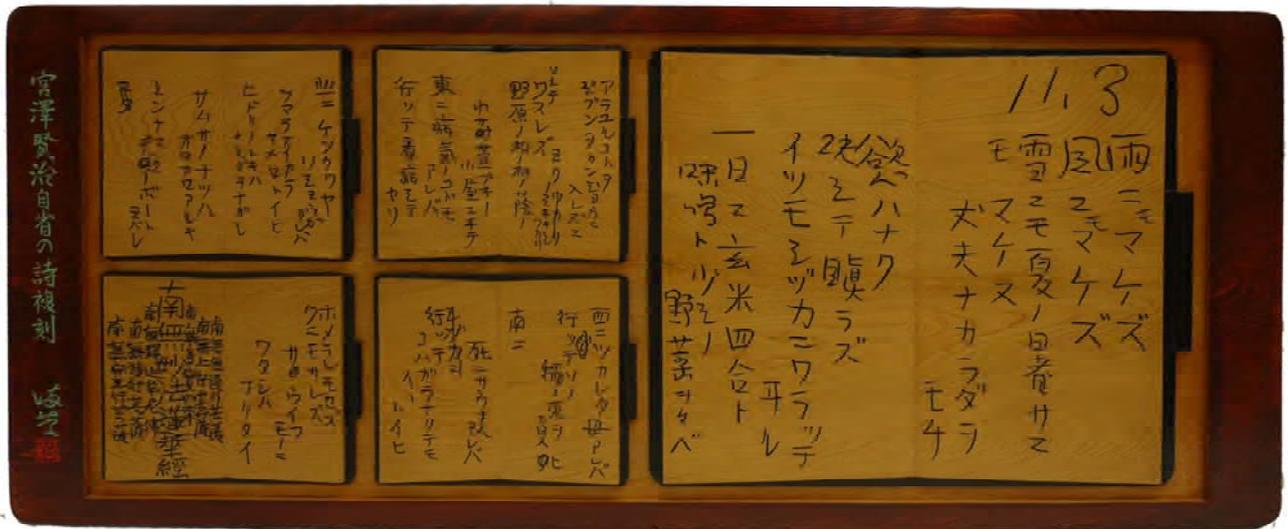
春の宵は旅人にとって夢が多い。



日々是好日 ひびこれこうじつ
ヒノキ

釈 文

一日一日が、かけがいのない時間であり、その一日を大切にし、好い日にする
ことが肝要である。



雨ニモマケズ (十一月三日)

ヒノキ

雨ニモマケズ
 風ニモマケズ
 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
 丈夫ナカラダヲモチ
 慾ハナク
 決シテ瞋ラズ
 イツモシズカニワラツテキル
 一日ニ玄米四合ト
 味噌ト少シノ野菜ヲタベ
 アラユルコトヲ
 ジブンヲカンジョウニ入レズニ
 ヨクミキシワカリ
 ソシテワスレズ
 野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
 小サナ萱ブキノ小屋ニ坐テ
 東ニ病氣ノコドモアレバ
 行ツテ看病シテヤリ
 西ニツカレタ母アレバ
 行ツテソノ稻ノ束ヲ負ヒ
 南ニ死ニサウナアレバ
 行ツテコウガラナクテモイイトイヒ
 北ニケンクワヤソシヨウガアレバ
 ツマラナイカラヤメロトイヒ
 ヒドリ(ひでり)ノトキハナミダヲナガシ
 サムサノナツハオロオロアルキ
 ミンナニデクノボートヨバレ
 ホメラレモセズ
 クニモサレズ
 サウイフモノニ
 ワタシハ
 ナリタイ
 南無無邊行菩薩
 南無上行菩薩
 南無多寶如来
 南無妙法蓮華經
 南無釈迦牟尼佛
 南無淨行菩薩
 南無安立行菩薩

釈文

宮沢賢治の詩について

賢治の詩の中で最も知られている「雨ニモマケズ」は、昭和六年（一九三一）長い病床生活をしている十一月三日、当時病床で使っていた手帳に、これまでの自分を省みつつ今後の生活の指針として、秘かに書き記したもので、二年後の昭和八年（三十七歳）で亡くなり、賢治の死後、弟静六氏によって原稿の入った大きなトランクのポケットの中から発見されたもので、読者を意識して書かれたものではなく、高村光太郎筆の「雨ニモマケズ」の碑が建立され、以来広く知られるようになりました。

この扁額は、この手帳（タテ一三一ミリ ヨコ七五ミリ）に太めの鉛筆で書き流した全文を、そのまま拡大し筆跡を忠実に復刻したものです。



鳥聲幽谷樹山影夕陽邨

ちょうせいゆうこくのじゅ さんえいせきようのむら
ヒノキ

釈 文

夕暮れ、埤（ねぐら）に帰る鳥の声が谷や樹に響き、夕陽の邨に長く山の陰が伸びている。

秋の田園の夕暮れは、心に優しく語りかける風景です



以 和 為 貴 和をもって 貴しとなす
木曾ヒノキ、サワラの合体木

釈 文

聖徳太子が定めた「憲法十七条 第一条」に見られる語として有名です。
人と人が、なごみむつみ合うことこそ大切である。

※合体木とは



ヒノキは、優良日本建築材として最も優れたものです。
一方、サワラは、水に強く、桶、曲げ物などに使われています。

※合体となったのは

山の中で二本のヒノキとサワラの木が、一定の間隔をおいて自然に成長し、
風などでお互いの肌（樹皮）が擦れ合い、樹皮が剥がれ、この扁額に刻した熟
語のように、木と木であるが、「なごみむつみ合い」自然の接ぎ木となり成長
したものであります。

この自然の現象は極めて稀に発生するもので、貴重なものです。



五福祥来　　ごふくしょうらい
ヒノキ

釈 文

五つの幸福がめでたく集まってくる。

五福とは、長寿、富裕、無病息災、道徳を楽しむ、天命を全うする。

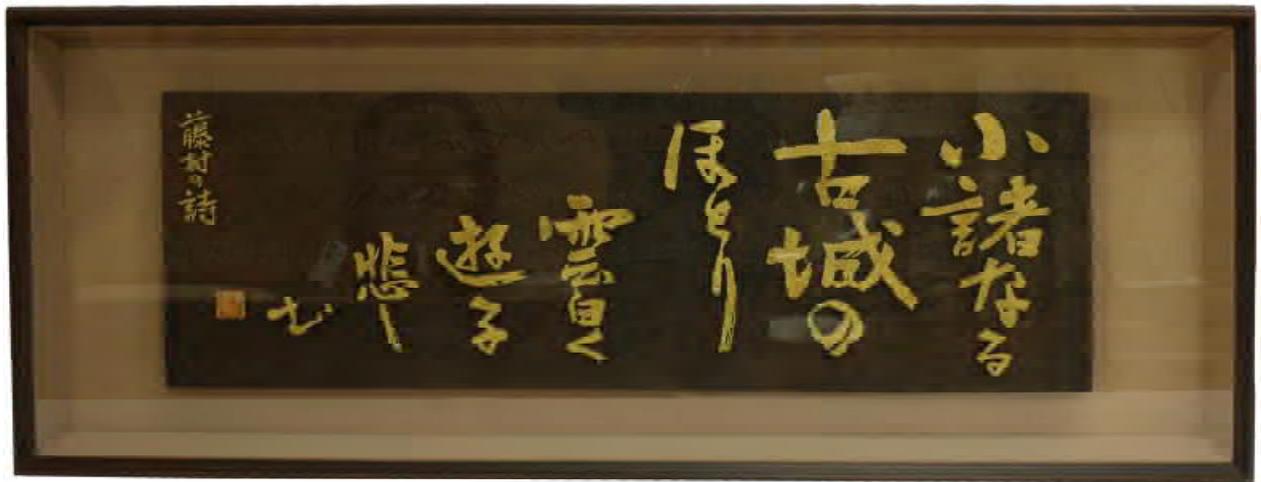


山河四望春　　山河四望の春
ヒノキ

釈 文

山や川、四方どこを見ても春である。

李 白 詩



島崎藤村の詩 小諸なる古城のほとり（抄）
ヒノキ（金箔貼）

釈 文

小諸なる古城のほとり雲白く、遊子悲しむ。



山あり谷あり 笑顔あり
カツラ（廃材）

釈 文

この幸せ、愛を大切に

釈文

鞭聲肅肅夜過河

鞭聲肅肅 夜河を渡る

曉見千兵擁大牙

曉に見る 千兵の大牙を擁する

遺恨十年磨一劍

遺恨なり 十年 一劍を磨き

流星光底長蛇

流星光底 長蛇を逸す

馬にあてるムチの音、ピシッピシッといかめしくも静かに全軍なりをしずめて夜に乗じて川をわたる。

夜明けどき目についたは、大将旗を真中にかかえる千兵の敵の本陣。

このときとばかりに、十年、磨きに磨いた一劍をふりかざして斬りおろしたが、ピカッとひらめく劍光のもと、大きなえものをうちもたらしたのは、残念至極。

頼山陽 川中島



カツラ（金箔貼）

釈文

男児立志出郷關 男児 志を立てて 郷関を出づ

学若無成不復還 学若し 成る無くんば復た還らず

埋骨何期墳墓地 骨を埋む 何ぞ墳墓の地を期せん

人間当處有青山 人間 到る処に 青山有り

男子として、学問をしようと志をたてて故郷を出た以上は、

もし学問上で大成できなかつたら、

故郷の墓地に限るだろうか。

人間どこでも、墓地とすべき青山があるのだ。

(一説……不復死不還、何期……豈惟に作る

釈月性 題壁)



カツラ (金箔貼)



獅子頭

キリ（一部金箔貼）

獅子頭の製作について

この獅子頭は桐材です。かつて、白鳥貯木場内の稲荷島（現：白鳥公園太夫堀の中島）に桐の（ひこばえ）として生長していました。

昭和六十二年、公園造成工事のため伐採放置され朽ちかけていた根株を、何かに活かすことが出来ないものか？とその一部を採取し三十年近く構想を温めながら保存されていたものです。作者である谷口満慶さん八十四歳の年男を迎えた平成二十六年、ようやく完成させることができたとのこと。

谷口さんは、四十年余、林野庁職員として名古屋営林局の職場に勤められ、刻字、木工芸などを趣味とし、最後の作品には、この獅子頭に挑戦されました。

『手元に頭の現物は無く、写真などを頼りに作ったもので、満慶流（まんけい流）獅子頭となりました。当初の目的だった勇猛で厳しい頭を想定して製作しましたが、思った通りの表現ができず、残念ながら歳相応の作品に仕上がったと思っています。これが老人最後の作品として見ていただければ幸いです。』

谷口満慶さん談



木曾ヒノキの枝材（金箔貼）

この花器の木材は、木曾ヒノキの枝の部分で、樹齡二百年以上の大径材から採取したものです。

春眠不覺曉

春眠 曉を覚えず

釈文

春だ。つい朝寝坊していると、

處處聞啼鳥

処々啼鳥を聞く

あちこちで小鳥がさえずる。

夜來風雨聲

夜来風雨の声

そうだ。昨夜は吹き降りだったな。

花落知多少

花落つること知る多少ぞ

庭の花もうんと散ってしまったかしら。

春 曉

孟 浩 然



初心不可忘 初心わするべからず
カツラ（金箔貼）

釈 文
初心わするべからず

題 壁 積月性の詩を併用

男児立志出郷關
學若無成不復還
埋骨何期墳墓地
人間當處有青山
（釈文は作品20番を参照）



徳川家の家紋

ヒノキ（紋は金箔）

葵紋について

徳川家の祖は、加茂郡松平郷（豊田市松平町）の字名から生まれた松平氏を名乗り、加茂明神の葵神紋を下賜された。その後、徳川氏の勢威が台頭するにつれ、周囲の人びとの葵紋使用制限を受け、独自の専用紋にまでの上げた。

葵といえばタチアオイ、ハナアオイをさすアオイ科の宿年草であるが、衣服などの文様に使われていた葵は天竺葵でフウロソウ科。加茂信仰の隆昌とともに紋に用いられるようになったのは、ウマノスズクサ科のフタバアオイで、カモアオイとも呼ばれる葵である。

京都の三大祭りの一つ「葵祭」は、葵紋を用いている上加茂神社、下賀茂神社の神紋となっている。

戦国時代には、三河の四家（伊那、島田、松平、本田）が賀茂神社の信仰の対象としていた霊草といわれる葵にあやかりたいとして、葵の家紋を用いたが、慶長十六年（一六一一）以降、徳川一族の独占となり、葵の“御紋”として天下に君臨した。

この葵の家紋の扁額は、谷口満慶氏（愛知県小牧市在住）が、NHKテレビ大河ドラマ「葵 徳川三代」（平成十二年）が放映されたのを機に、徳川一族の象徴である葵の家紋を一幅の扁額として纏められ自作されたものです。



村情山趣　　そんじょうさんしゅう
ヒノキ（空洞木）

釈 文

村の風情と山の趣

いなか、いながええよ。山の景色を見ると趣（おもむき）あるよ。
いわゆるノスタルジックといった感。

この作品に使用した木は、大きい木曾ヒノキの枝分かれした木の又の部分に、入皮（くぼみ）ができていて、その形が山の風景にも似て面白く、作品にされました。



木曾式伐木運材図絵 元伐之図

カツラ（額はヒノキ）

木曾式伐木運材図絵（上巻）に描かれている図絵を、厚さ六十ミリのカツラの板材から彫り上げて立体化されたものです。

人物も含め斧や紐の部分まで折らすことなく彫り上げられました。

作品の取扱い展示に当たっては細心の注意を払いました。

出展協力（所蔵）：牧野 義則 氏

（有限会社 つけち創工社）



（一部拡大）



所蔵：中部森林管理局



木曾式伐木運材図絵 杣小屋之図
カツラ

木曾式伐木運材図絵（上巻）に描かれている図絵（杣小屋之図）を、厚さ八十ミリのカツラの板材から彫り上げて立体化されたものです。

出展協力（所蔵）：牧野 義則 氏 （有限会社 つけち創工社）



所蔵：中部森林管理局



獅子舞 ししまい
ケヤキ

ケヤキの小丸に昔の江戸縁起の根付風（印籠や煙草入れなどを帯に挟む留具）を根付より大きい置物として創作されました。



一 期 一 会 いちごいちえ
ヒノキ

釈 文

生涯にたった一度の出会いだと思って誠を尽くせ。



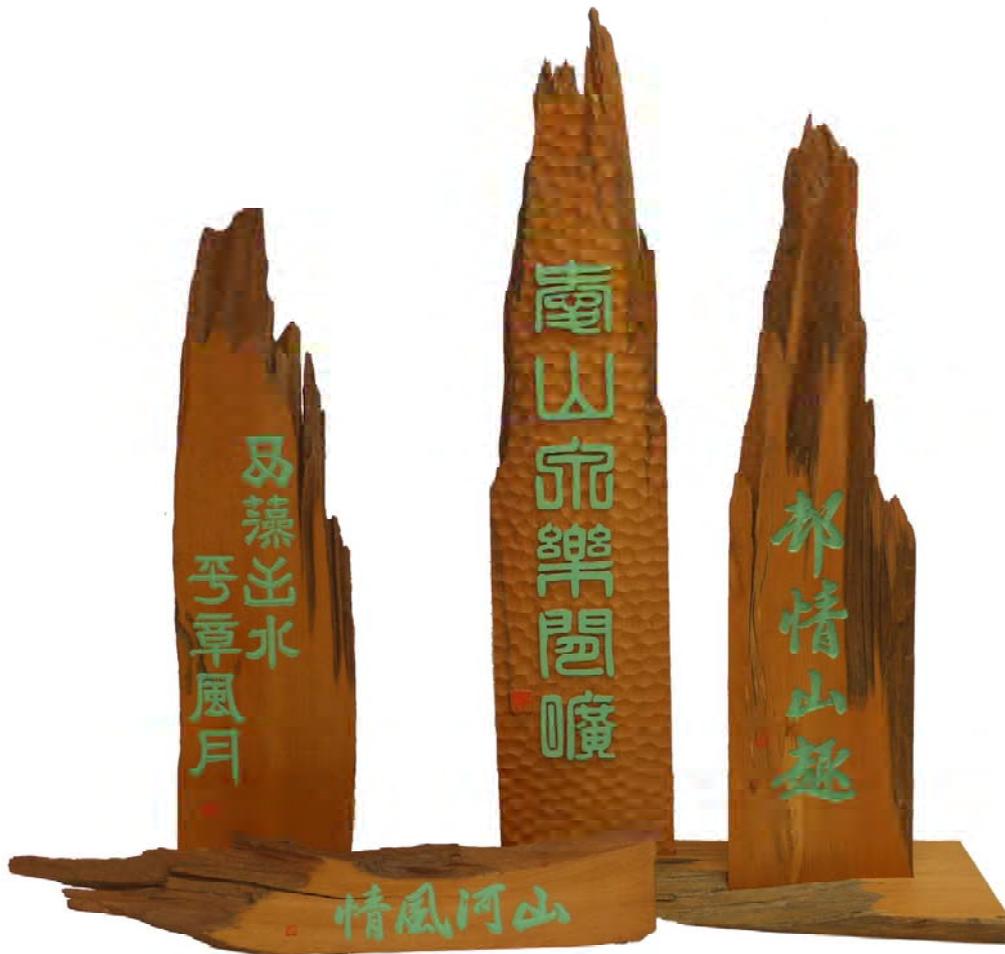
和光同塵 わこうどうじん
ヒノキ 奎

積 文

其の光を和らげ、其の塵に同ず。

己の優れた知恵、才能など隠して
世俗の塵にまじわり合うこと。

「和」は和らげる意。「塵」は塵
の意でけがれた世の中をいう。



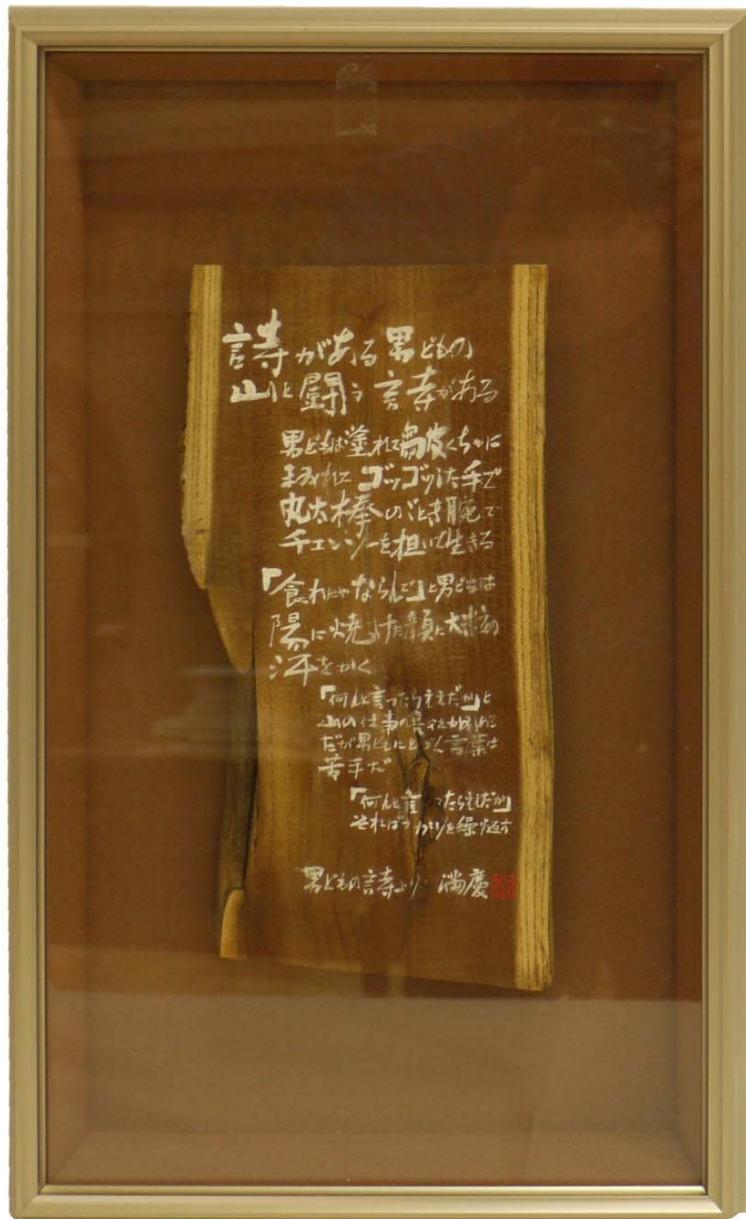
山河風情 さんがふうじょう
カツラ（廃材）

中国の観光地、桂林の山河になぞらえ、桂（カツラ 樹名）の端材を山河に見立て、漢詩を刻み一幅の情景として試みたものである。

邨情山趣 そんじょうさんしゅう
村の風情に山の趣（おもむき）

愛山泉樂間曠 さんぜんをあいし、かんこうをたのしむ
山や川を愛して、ゆったりしていることを楽しむ。

品藻山水平章風月 さんすいをひんそうし、風月をへいしょうす
山水や風月を品評して、風流を楽しむ。
品藻は品評、平章は公平に批評すること。



男どもの詩より

エンジュ

詩がある 男どもの 山と闘う詩がある
 男どもは塗れて 皺くちやにまみれて ゴツゴツした腕で
 丸太ん棒のごとき腕で チェンソーを担いで生きる
 「食わにやならんで」と 男どもは陽に焼けた顔に 大粒の汗をかく
 「何と言ったらええだか」と山の仕事の喜びをかみしめる
 だが男どもにとって 言葉は苦手だ「何と言ったらええだか」
 そればかりを繰り返す



森の水車 緑の森のかなたから……

ケヤキ（額：スギ）

清水みのる作詞

緑の森のかなたから
陽気な歌がきこえましょう
あれは水車の廻る音
耳をすましておききなさい
「コトコトコットン……」



蓮花在水

れんげ みずにあり

カツラ

釈 文

蓮の花はどのような泥沼の中でも汚れることなく、滑らかに花開くとか。世間の悪に染まらないで強く生き抜くこと。



松寿千年翠

しょうじゅせんねんのみどり

カツラ

釈 文

マツは常に青々とした緑を保ち、千年の末までも栄えつづける。



徳有隣 徳は隣にあり
積 文
有徳の人は多くの友がある。



無信不立 信無くば立たず
信頼がなければ成り立たない。



百花舞う 百か舞う



木曾式伐木運材図絵

白鳥湊着桴之図 銅板

平成元年名古屋市政百周年を記念し、元熱田白鳥貯木場付近一帯で世界デザイン博覧会が開催され、当時需要開発センターが協賛参加したため、白鳥貯木場・御船蔵跡記念碑を移設し案内板にこれと同じレプリカを使用し修復しま

した。

このレプリカは、このデザイン博協賛を記念し作成されたものです。

この図絵は、江戸時代に尾張藩が木曾（長野）裏木曾、飛驒（岐阜）の藩領の山から伐り出された木材を、木曾川や飛驒川を流して運び、白鳥貯木場に積み揚げられているところです。



旅立ちの図

ケヤキ

この刻字は、中国の殷の青銅器文化の時代（紀元前十二世紀～前三世紀）の金文（鐘鼎文）である。

古来中国では、のぼり旗をもって旅をした。その門出を母と子が旅の安全を祈り、送りだしているところを図化したものです。

<そのほかの作品>



素志與白雲同悠

心志は、かの白雲のごとく悠々

高情與青松共爽

性情は、青松のごとく爽やかである

釈 文

初めからの志は、白雲と同じくはるかであり、
高尚な情は、青松と同じくさわやかである。

王 融



平常心是道



一期一会



ノ一・モア広島長崎



ともに白髪の生えるまで



バナナ吊り



めがね入

< 作者とともに >



河野 充 中部森林管理局名古屋事務所長(右)
平成27年7月27日



牧野義則さん(有)つけち倉工社 代表取締役(左)
平成27年7月11日



谷口満慶さん同夫人とともに
平成27年9月30日

林経新聞

業界短信

◆中部森林管理局・名古屋事務所(河野充所長)は10月31日まで、同所内・熱田白鳥の歴史館で「木彫・刻字作品展」を開催している。

旧名古屋営林局の職員だった谷口満慶氏の作品で、木の盤に文字を彫り込んだ「刻字」や、木曾の杣人(そまびと)を描いた「木曾式伐木運材図会」を再現した木彫りなどを展示している。

開館時間は平日午前9時から午後4時。

TEL 052-6883-0209

林経新聞社
 行所 名古屋市昭和区広路通3-7-1
 (〒466-0854)
 TEL 052(757)5833
 FAX 052(757)5855
 Eメール info@rinkei.jp
 大阪支局 TEL 06(6605)9165
 FAX 06(6605)9166
 広島支局 〒731 082(285)9117
 九州支局 〒812 092(531)8628
 東京事務所 TEL 03(5754)4555
 FAX 03(5754)4566
 WEB http://www.rinkei.jp/
 ©林経新聞社 2015

中部森林管理局
名古屋事務所

「熱田白鳥の歴史館」が環境整備

24日に除幕式、森の整備、看板など

中部森林管理局(桂川裕樹局長)名古屋事務所(名古屋市熱田区熱田西町1の20、河野充所長)内に平成26年4月、「林業の歴史を学び、国産材の普及・利用促進を図る」目的で開館した展示・学習施設が今年4月から「熱田白鳥の歴史館」と命名され施設の充実と地域の人達に利用されている(既報)。



そして同歴史館を訪れる人達から、名古屋事務所に隣接する森(かつては国有林材を取扱



環境整備された「熱田白鳥歴史館」の看板の除幕式

う企業の団体が森の中央に光星稲荷社が祀っており、年1回の大祭を開いていた由緒ある森で今はご神体を京都伏見の本宮に返し森だけとなっている)を「森が繁って施設が分かりづらい」、「駐車場入口に「熱田白鳥の歴史館」がわかる看板があるとよい」

などの意見が寄せられ改善を検討していた。

そんな矢先、林野庁外郭団体の(一社)名古屋林業土木協会(梅田豊支部長)が今年50周年を迎えており記念事業として名古屋事務所と協働して同館の環境整備を行うことになったもの。

作業では同協会が用意した林業機器で森を整備し残材は展示館の丸太椅子や森林教室の教材に向けられた。

木製看板の製作・設置では、材料は同事務所所有の木曽桧、製作は同協会付知支部が行った。

看板の除幕式と併せ内覧会が7月24日午前10時から同事務所前で行われ主催者の河野事務所長、来賓の浅井熱田区長が挨拶し、除幕は7氏が臨み、内覧では歴史館内の「木彫・刻字作品展」などを見た。

「木づかい推進企画展」開催中

中部森林管理局名古屋事務所

中部森林管理局名古屋事務所（河野充所長）は現在、同所併設の「熱田白鳥の歴史館」で木づかい推進企画展「木彫・刻字作品展」（協力＝名古屋造

80作品のなかから40点を厳選し展示している。

このうち、「木曾式伐木運材図会 杣小屋之図」は、カツラを素材に同局が所蔵する江戸後期の伐木運材の様子を描いた巻物・木曾式伐木運材図会の一部を木彫りで立体化したものだ。

また、刻字作品「以和為貴（和をもって貴しとなす）」は、貴重な木曾桧とサワラの合体木を使用。自然の接ぎ木と生長した合体木を通じて、人と人が和み、むつみ合うことの大切さを表現している。

時間は午前9時～午後4時。入場・観覧は



木曾式伐木運材図会を木彫りで立体化した「杣小屋之図」

無料。
問い合わせは同事務所（電話052・683・9206）まで。



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/

広報

中部の森林



第 138 号

平成 27 年 9 月 (4)

開催中！十月末まで

企画展 『木彫・刻字作品展』

「名古屋事務所」「熱田白鳥の歴史館」では、「木づかい推進月間」の十月三十一日までの間、木彫りや刻字の作品展示を行ってまいります。(詳しくはホームページをご覧ください。)

企画展コーナーでは、作者である谷口満慶さんの多くの作品の中から四〇作品を展示していますが、このうち一つの作品をご紹介します。



作品#21 獅子頭となって里帰りした桐の木

この獅子頭は桐材です。かつて、白鳥貯木場内の稲荷島(現…白鳥公園太夫堀の中島)に桐の櫛(ひこばえ)として生長していました。

昭和六十二年、公園造成工事のため伐採放置され朽ちかけていた根株を、何かに活かすことが出来ないものか?とその一部を採取し三十年近く構想を温めながら保存していたものです。

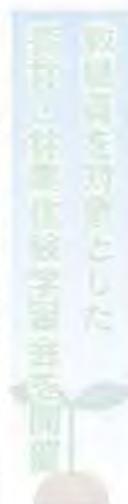
谷口さんは四十余年国有林に勤務され、刻字、木工芸などを趣味とし、これまで制作された作品は八〇作以上に及ぶほか、国有林退職後は地域の彫刻や書道教室の生涯学習の指導に携わるなど貢献



谷口満慶さん(右は河野所長:展示館で)

されました。

この獅子頭は八十四歳、「年男」を迎えた昨年ようやく完成し、人生最後の作品といわれていました。



「木曾森村ふれあい推進センター」木曾署 八月六日、木曾地域の数職員の来賓として「森林・林業体験学習会」を、木曾町の御料館(旧木曾藩御料所)で開行。及び本館森林管理署管内の成山地区にて実施されました。

掲載しているものは展示作品の一部です！

徳川葵紋一覧



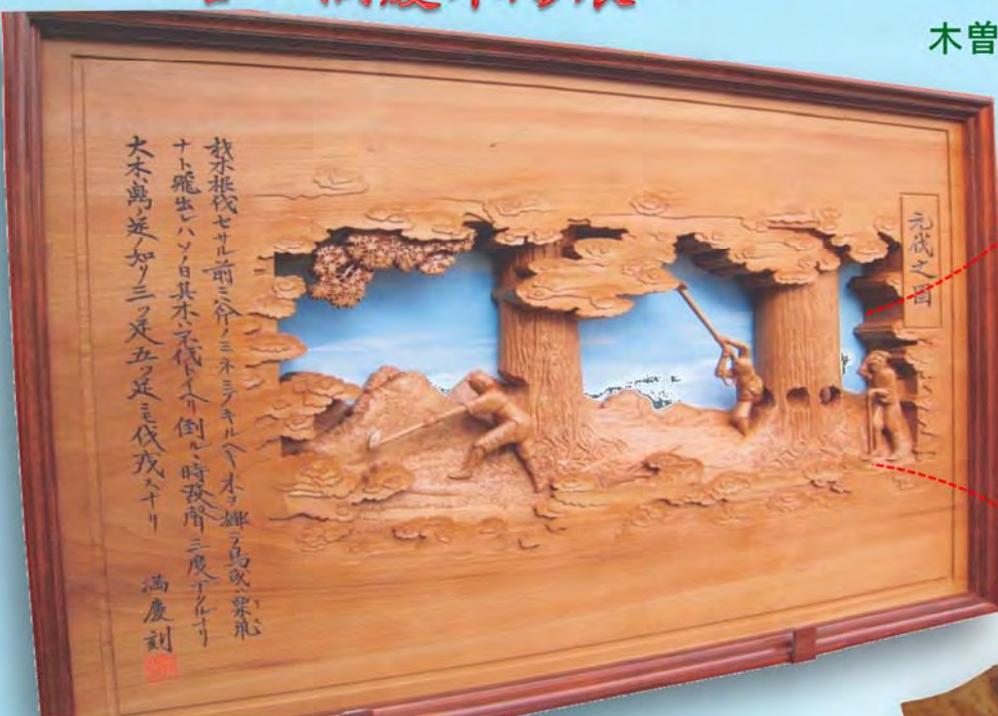
「春暁」春眠不覺曉
木曾ヒノキ枝の彫刻

木づかい推進企画展

木彫・刻字作品展

～谷口満慶木彫展～

木曾式伐木運材図会「元伐之図」



(一部拡大)



「和を以て貴しと為す」
ヒノキ・サワラ合体木

「頼山陽 川中島」



「村情山趣」



入場・観覧無料

2015/7/1～10/31

平日 9:00am ～ 16:00pm

場所 熱田白鳥の歴史館

主催 中部森林管理局 名古屋事務所

Tel 052 - 683 - 9206

協力 名古屋造林素材生産事業協会

木彫・刻字作品展

2015年7月1日(木)－10月31日(土)

熱田白鳥の歴史館

木づかい推進企画展
中部森林管理局
名古屋事務所

		材質	所蔵先
1	Welcome Gate ケヤキの衝立	ケヤキ	個人
2	祥雲	ヒノキ (額:イチイ)	個人
3	和	カツラ	個人
4	千寿	カツラ	個人
5	春夏秋冬	カツラ	個人
6	道	カツラ	個人
7	耕不尽	クワノキ	個人
8	偶成 朱熹 少年易老学難成 ……………	トチノキ	個人
9	七つの子	ケヤキ	個人
10	春宵多旅夢	カツラ	個人
11	日々是好日	ヒノキ	個人
12	宮澤賢治 雨ニモマケズ ……………	ヒノキ	個人
13	鳥声幽谷樹山影夕陽邨	ヒノキ	個人
14	以和為貴	ヒノキ。サワラ 合体木	個人
15	五幅祥来	ヒノキ	個人
16	山河四望春 李白	ヒノキ	個人
17	島崎藤村 小諸なる古城のほとり(抄)	カツラ	個人
18	山あり谷あり笑顔あり	カツラ(腐材)	個人
19	川中島 頼山陽 鞭聲肅肅夜過河 ……………	カツラ	個人
20	題壁 釈月性 男児立志出郷關 ……………	カツラ	個人

		材質	所蔵先
21	獅子頭	キリ (熱田白鳥自生木)	個人
22	春 暁 孟 浩 春眠不覚暁 ……………	木曾ヒノキの枝	個人
23	初心不可忘 題壁を併用	カツラ	個人
24	徳川家の家紋	カツラ	個人
25	村情山趣	ヒノキ	個人
26	木曾式伐木運材図絵「元伐之図」	カツラ	つけち創工社
27	木曾式伐木運材図絵「杣小屋之図」	カツラ	つけち創工社
28	獅子舞	ケヤキ	個人
29	一期一會	ヒノキ	個人
30	和光同塵 (ヒノキ)	ヒノキ	個人
31	山河風情	カツラ(腐材)	個人
32	男どもの詩より	エンジュ	個人
33	森の水車	ケヤキ (額:スギ)	個人
34	蓮花在水	カツラ	個人
35	松寿千年翠	ヒノキ	個人
36	徳有隣	カツラ	個人
37	無信不立	カツラ	個人
38	百花舞う	カツラ	個人
39	木曾式伐木運材図絵「白鳥湊着桴之図」	(銅板)	個人
40	旅立ちの図	ケヤキ	個人



熱田白鳥の歴史館



**林野庁
中部森林管理局
名古屋事務所**

〒456-0036 名古屋市熱田区熱田西町1-20

TEL 050-3160-6660

Email : c_nagoya@maff.go.jp

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/nagoya/index.html>